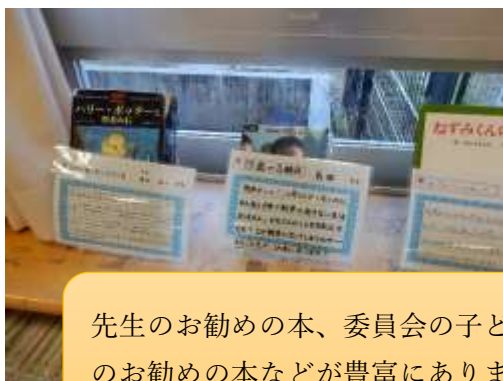


東濃地区学校図書館教育賞 実地審査について

令和3年度は多治見市から3校が参加しました。

1. 滝呂小学校

「読書の楽しさを知り、進んで読んだり、調べたりする子」の育成を目指して取り組んでいます。学習センターとして位置づけられ整備が進んでいました。朝読書、PTAとの連携などを通して、貸出冊数が増加し、読書活動が充実していました。さらに、学習との連携を図り、その積み上げがありました。



先生のお勧めの本、委員会の子どものお勧めの本などが豊富にありました。



パソコン室は、調べ学習の本を集めて、学習で活用できるように整備されました。

教科の学習と総合的な学習の時間とを連携させて、関連図書を活用した学習活動を位置付けていました。

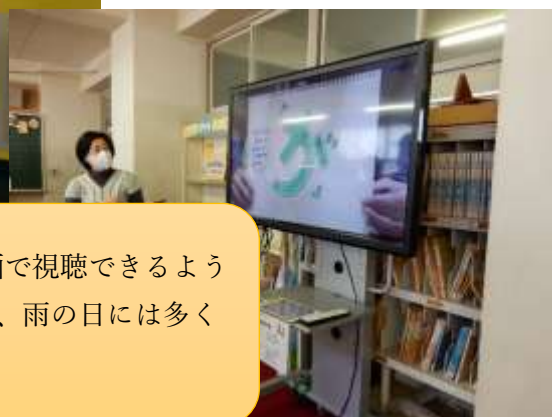


2. 昭和小学校

「楽しく読書に親しみ、進んで学習に役立てようとする子の育成」を目指して取り組んでいます。朝読書、PTA による工夫された読み聞かせ、読書郵便などの取り組みを通して、読書への意欲を向上させていました。カリキュラムマネジメントを図書館にも位置づけ、関連書籍を集めておくことですぐに学習に役立てる工夫がありました。ICT の活用を積極的に進めていました。



全学年が教科等と図書館とを連携していました。カリキュラムマネジメントに、有効な図書やICTの活用についても見える化をしていました。



PTA による読み聞かせを動画で視聴できるように整備してありました。特に、雨の日には多くの子どもが集まるそうです。



読書郵便も楽しみながらやっていました。ICT と紙の併用をバランスよくやっていました。

学習との連携をして、その作品を累積しておくことで次年度も取り組みやすくしていました。



3. 北陵中学校

「読書に親しみ、自分が夢に向かって希望がもてる生徒の育成」を目指して取り組んでいます。校内の図書館以外の場所にも新刊の紹介がされているなど、本に触れる機会をうまくつづけていました。夢をテーマに、一貫性のある図書館経営がなされていて、それが学校経営の柱とも連携していました。



夢コーナーが充実しており、生き方を考えたり、学んだりする書籍がすぐ手に取れるようになっていました。中学生が読みたくなる本を分かりやすく展示してありました。



先生からの本の紹介は親しみのある手書きで、内容もとても魅力的でした。



勉強の仕方を学んだり、参考書を入れたりすることで、学習のヒントが得られる工夫がありました。



同じ本を小説か漫画家を比較するコーナーもあり、それぞれのよさを実感するようにしていました。